

## 一般演題6-5

### 第2種高気圧酸素治療装置の更新を経験して

門馬陽平<sup>1)</sup> 相馬由利<sup>1)</sup> 馬場照太<sup>1)</sup>

小森恵子<sup>1)</sup> 若井慎二郎<sup>2)</sup> 猪口貞樹<sup>2)</sup>

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 1) | 東海大学医学部附属病院 臨床工学技術科 |
| 2) | 東海大学医学部 外科学系 救命救急医学 |

#### 【はじめに】

当院は、1975年に開院し高気圧酸素治療を始めて現在に至る。前年度の治療件数696回、救急的適応204回、非救急的適応492回の治療を施行している。開院当初より使用していた第2種高気圧酸素治療装置(エスペック社製:PHC-60)を2015年度に第2種装置(パロテックハニュウダ社製:P-2200S)に損耗更新を行ったのでその経験を報告する。

#### 【更新・準備】

第2種装置を購入し約40年が経過し、メンテナンスサービス期限が2015年9月末に終了することで当該年度中の更新が決定した。装置入れ替え6カ月前に臨床工学技士をはじめとし、多職種のメンバーで構成されたワーキンググループ(WG)が発足した。定期的に集まりスケジュールを作成し必要な準備を整え、工事期間としては、2015年10月から2016年3月までの6か月間とし、工程中には、進行状況の報告、問題点などのディスカッションを行った。治療停止1カ月前には院内の各診療科に高気圧酸素治療の長期休止のお知らせを出し、院外においても救急搬送を考慮して県央、県西部の消防署、保健所等にもHBO診療長期休止の通知文書を提出した。その他、当院に患者を紹介している施設や定期点検時、診療振り替えを依頼している施設にも同様の通知文書を提出した。また、損耗更新にあたって当院の運用・管理が学会の安全基準に沿っているのか見直しを行った。

#### 【更新を終えて】

ほぼスケジュール通りに工程は進んだが、保健所の視察予定が数日遅れてしまったため、操作トレーニングを少し短縮することになったが問題なく予定通り4月1日に治療開始を迎えることができた。また、大きなトラブルが起きることも無かった。運用においては、今後も安全基準を順守した診療体制を継続するにあつ

て、操作者(技師)を増やしていく必要がある。

#### 【まとめ】

WGでの多職種との協力や事前の準備・計画がトラブルのない更新に繋がった。そして、高気圧酸素治療の運用・管理を定期的に見直すことは、安全な治療の施行に重要だと考える。今後も安全基準に沿った運用を確保し、医療安全を第一に治療を施行していきたい。